

オナラを自在に操った大道芸人がいた

江戸中期の博物学者、浄瑠璃作者で有名な平賀源内が「放屁論」を執筆するきっかけになったといわれる大道芸人がいた。

名前は霧降花崎男といい、江戸両国橋の見世物で自在にオナラ(屁)を披露し、大人気を博したとのこと。お尻を振りながら、犬の遠吠えや鶏やウグイスの鳴き声などのレパートリーを持っていた。オナラを芸にまで仕上げ、金を稼ぐ見世物にしたことは立派であると、平賀源内は評価したらしい。

